

2024年度 第1回介護保険専門分科会においていただいた委員意見

○資料3（第8期介護保険事業計画の進捗状況）

・第1章第1節 No.1：つどい場の設置促進

令和5年度の運営補助：229件 ※上記のうち、14団体が年度中に廃止・取下げと、あるが、どのような理由で廃止・取り下げとなったのか。つどいの場については、地域に常設で、少なくとも週1回以上利用できるような環境を整備することが必要と思う。そのためにはできるだけ多くのつどい場が利用可能になるよう行政として支援していくべきであり、途中で廃止・取下げとなった場合はその要因について把握し、今後に生かすべきだと思う。

・第1章第1節 No.1：つどいの場の設置促進

「つどいの場」「介護予防カフェ」の場所を知らなかったのが、神戸市広報 KOBE の「シルバー情報ひろば」で毎掲載せて欲しい。行ってみたい。

・第1章第1節 No.4：普及啓発

「フレイルチェック」は前回、私はいつもの薬局で申し込んだ。月に2回くらい行くので声をかけてもらえることになったのだが、声かけいただいた時も薬を待っている人でとても混雑していて遠慮することにした。

特定検診の集団の場でないとフレイルチェックは薬局中心なので、特定検診の時に個人医院でもチェックしていただけるといいのに、と思っている。

他に、理学療法士、作業療法士などの学校でもチェックの場所にならないか。

・第1章第1節 No.4：普及啓発

「元気！いきいき！体操」の YouTube を見つけた。口腔とか自身の参考になっている。5年前のものなので、新しいものもアップして欲しい。

今はテレビと同じように YouTube もよく見るので、YouTube の利用もすすめて欲しい。

神戸市内の体育や介護を学んでいる学生や器械体操部の方をモデルで参加させると明るくなっていいのではないかと思う。

・第1章第3節 No.13：KOBE シニア元気ポイント

登録者数 2,813 人、登録施設 295 施設、交流会実施回数 16 回（令和6年3月末時点）とあり、「登録者数・登録施設数について、増加はしているものの制度設計当初の目標には達していない。フレイル予防の観点から多くの高齢者に登録してもらえるよう取り組んでいく」を課題として挙げている。

先日シニアでボランティア活動を積極的に行っている人たちに会う機会があった。その際、シニアの方々が KOBE シニア元気ポイントについて非常に使い勝手が悪いと異口同音に言われたのが大変気になっている。施設数は 295 とありますが、市内の高齢者施設は皆登録されているのか。また施設外でのシニアによるボランティアをどのように KOBE シニア元気ポイントに取り込んでいくかも今後検討すべきだと思う。

・第1章第3節 No.13：KOBE シニア元気ポイント

KOBE シニア元気ポイントは、私自身も以前調べたが、ポイントに魅力が少ないと思い登録をしなかった。

・第1章第3節 No.14：老人クラブ（KOBE シニアクラブ）への支援

街角掃除とかなら進んで参加したい。しかし、検索してもよく分からないので、ボランティアなども神戸市の広報紙に具体的に載せるとか、スマホアプリに載せて欲しい。

・第1章第3節 No.19：高齢者の移動支援（敬老優待乗車証の交付）

寿パスを最近いただいたので、とても外出が増えた。ありがとうございます。

・第2章第2節 No.1：介護家族支援を含めた対応

複合的な課題を抱える世帯へのアプローチとして、子ども・若者ケアラーへの支援は重要である。報告には、民間企業と連携した支援を検討しているとの記載があるが、具体的にはどのような支援を検討しているのか。この支援は行政としての立場とは異なる民間であることの意味があるのか、詳述してほしい。

・第2章第2節 No.10：看取り・ACPの普及啓発

最近、家族の看取りを経験した。自分は是非ACPを学んで最期はどうして欲しいか保険証などに記入できるといいなと思った。臓器移植と同じようにカードを持っていたい。自分の意志をつたえるものがあれば教えて欲しい。

・第2章第3節 No.14：成年後見制度利用支援事業の実施

成年後見制度はとても興味があるので、信用の出来る人は公が紹介している所を尋ねたいと思っている。

・第3章 No.14：若年性認知症の人への支援充実・社会参加促進

若年性認知症の人への支援研修やデイサービス・デイケア研修の実施については、定期開催をしているのであれば、実施頻度や受講者人数などの数値による実績を示してほしい。

・第4章第2節 No.10：鉄道駅のバリアフリー化

県、市から補助金が出ていることを知らなかった。こういうことも補助している、と知らせて欲しい。

・第5章 No.3：すまいへの支援

母が看取りの病院に入院した時、海外出身のスタッフの方で、本当に良くしていただいた。

すまいなど、優遇してあげて欲しい。とても真面目な方々ばかりで、自分が色眼鏡で見てしまっていた初対面のときを反省した。

・第5章 No.11：ハラスメント・安全対策

ハラスメント・安全対策として、訪問介護員の二人訪問への費用補助を制度化して以来、申請件数は0件が続いている。複数名での訪問は介護従事者の安全性を確保するうえで有効なハラスメント対策であるが、ホームヘルパー（訪問介護員）の人手不足の中で、1か所の訪問に2名のヘルパーを配置することは現実的に困難と考える事業者が多いのではないかと。制度の認知度向上によって補助申請が増えるのか疑問であり、ヘルパーの離職要因にもなるハラスメント対策はさらに工夫して講じていくことが必要と考える。

○資料4（第9期介護保険事業計画の進捗状況）

・No.2：地域拠点型一般介護予防事業

一般介護予防事業を担うつどい場において、利用者の高齢化により参加者が減少し、事業者もスタッフの高齢化により減少し、伸び悩む状況がある。利用者・事業者の双方へのアプローチが必要となる中で、前期高齢者の参加を促すための事業内容の見直しや機会提供の必要性が記載されていたが、利用者の減少には参加するための外出や移動が困難になっていることなど、もう一つの要因が隠れている可能性もあることから、高齢者の近隣への移動支援について、公共交通機関のバスの優待利用だけでなく、検討することが必要ではないかと考える。

・No.47：地域における災害時要援護者支援の取組推進

緊急時の対応について、大規模災害発生時の要援護者の支援を迅速に実施するために、神戸市の災害時対応の方針を具体的に示していただきたい。

特に支援が必要な方の情報開示の方法や、安否確認における関係機関との連携方法など具体策を示していただきたい。

・第3章「認知症の人にやさしいまちづくりの推進」について、活動項目ごとに実行推進されていることに感謝する。但し、下記事項については、一層の実行推進をお願いする。

No.57：初期集中支援チームの周知と活動の充実

No.60：KOBEMみまもりヘルパーの養成と周知及び活用

No.64：認知症サポーターの再教育と活動の促進

No.68：若年性認知症活動の充実と社会復帰支援活動の促進

・No.85：介護現場の理解促進・魅力発信

介護人材の確保について、中学生のトライやるウィークなどを通じて介護の仕事への理解度を高める取り組みをしているが、さらに小学生や高校生などの教育現場に範囲を広げた活動をお願いする。

・No.95：ハラスメント・安全確保対策

カスタマーハラスメント対策について、利用者側の理解度を高めるために、リーフレットを作成されるようだが、介護現場におけるハラスメントの具体例を分かりやすく示していただき、ハラスメントは決して許されない行為であることが一目で分かるような内容を記載して作成していただきたい。また、事業者が介護現場における対策マニュアルを作成する際に見本となるような雛形を神戸市において作成いただきたい。

・No.95：ハラスメント・安全確保対策

訪問看護職員・看護師の安全確保対策に資する費用の一部を補助しているとの事だが、2024年度の利用実績はないとの事であった。

介護業界からご意見を頂いたことがあるが、人材不足が著しい業界において、専門職を2名確保すること自体が難しくなっている。

ハラスメント対策で2名派遣を実施する場合、1名は介護資格なしでも補助が出来るよう制度自体の見直しが必要ではないか。

○資料3, 4 (介護保険事業計画の進捗状況)

・第4章第1節②施設・居住系サービスの確保

第8期計画において、特別養護老人ホームの整備目標630床に対して、263床に留まった件について、深刻に受け止めるべき。

特に介護人材不足と建設資材の高騰は、第9期計画以降も続くと思われ、介護老人保健施設等の施設系に大きな影響が出てくるのではないかと懸念される。

・第5章介護人材の確保・育成

上記に関わる介護人材の確保について、「コウベdeカイゴ」の政策を予算もつけて、こども家庭局が保育士等におこなっている「6つのいいね」と同等の政策に近づけることが、介護人材の確保によって有効な取り組みだと考える。

・第8期計画・第9期計画ともに「周知を図る」「周知に努める」といった表現が散見される。しかしながら、それ以上の具体的な記述が見られない。込み入った制度などを市民に伝えるのは、容易ではない。どのように周知するのか、取り組もうとしている方法なども、計画の中で示す必要があると考える。過去にうまくいったケースがあれば、その成功事例なども具体的に加えると、今後役に立つように思う。

また、資料には元号表記と西暦表記が混在しているが、市民や庁外の関係者が見る資料の場合は、西暦併記、あるいは西暦のみの方が親切ではないかと、個人的には感じる。

○資料6 (総合事業サービスワーキンググループ報告)

住民主体の訪問サービスの利用実績があまり伸びていないのが現状と思われる。原因は担い手不足もあると考えられるので、シニアボランティア制度を活用するなど、幅広く人材活用できる制度を検討してほしい。

○資料7 (地域ケア会議の状況)

あんしんすこやかセンターレベルでの地域ケア会議で検討した事項はや区地域ケア会議で検討中の事項については、神戸市で政策への反映が必要なことと思われる。

各種関係機関とそれぞれの課題について、市レベルで話し合う機会を持っていただきたい。